



ドクター板東の

メデイカルリサーチ

Vol. 103

～近大の マグロが社会 変えていく～

<http://pianomed-mr.jp/>

あなたはマグロが好きだろうか？ 日本人は誰もが美味しいトロに憧れ食べたと思うだろう。

しかし、いま世界ではマグロに関して国際的にいろんな問題が勃発している。今後、日本で鮪（まぐろ）が食べられない恐れが十分にあるとのニュースに驚いたことを思い出す。

一方、近畿大学水産研究所が長年をかけて研究し、養殖してきたのが「近大マグロ」である。最近テレビで紹介され次第に知られつつある。今回は、この話題に触れてみたい。

銀座の店

近大卒の魚と紀州の恵み『近畿大学水産研究所』が営業するレストランが、東京（銀座）と大阪（梅田）に2店舗ある。私はこの情報を得ているいろいろと調べ、ちよūdō出張のときに訪れることができた。

立ち寄ったのは4月、東京フォーラムで数万人が参加する日本内科学会るとき。有楽町から数分歩くと到着



図1

する。すでに、1時間前から近大マグロのランチを求める人々が行列に（図1）。私と同じく「おのほりさん」も少なくないようだ。

丁寧な案内によりお客さんが店内へ。私の予想とは異なり、一組ずつ順番にゆつくりと招きいれられた。落ち着いた雰囲気、スタ



図2



図4

ツフの対応も上品でとても居心地がいい。

注文したのは、当店の標準メニュー「近大マグロと選抜魚のお刺身ご膳」である（図2、3、4）。なかなか美味で、いろいろなバリエーションを楽しめた。

養殖マグロがここまで展開できたのは、数多くの人々が長年にわたり研究を継続してきたお陰である。



図3

徳島県の糖尿病

各テーブルには資料も設置され、近畿大学の歴史や情報を得ることができた。

6月上旬、徳島県にシヨッキングなニュースが流れた。昨年、糖尿病による死



図5

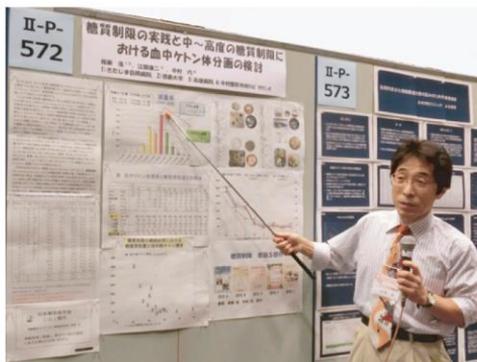


図6



図7

死亡率が全国の都道府県で最も高く、6年連続ワースト1位に。その詳細は、昨年度県内で糖尿病の死亡数が135人。人口10万人あたり17.6人と、全国平均の11.0人に比し非常に高い。

その原因は、日常的に車を使う運動不足や野菜不足など。県はウオーキングイベントや、野菜のレシピコンクールなどを通じ、啓発に取り組んできた。

筆者は今まで、糖質制限の有効性について啓発を続けてきている。ちょうど、

2014年5月に大阪で日本糖尿病学会学術総会が開かれ、私は糖質制限の発表を行った(図5、6)。糖質制限に対する理解が次第に広まり、嬉しく思う。

大阪の店

折角大阪に来たので、この際に訪れたかったのが、大阪駅直結のグランフロントだ。あまりに巨大な空中都市にいた。北館・ナレッジキャピタル6階に位置する「近畿大学水産研究所」のレストラン(梅田)に足



図8



図10

を運んだ(図7)。

私は運良く、1日限定20食「花かごいけす御膳」を注文できることに(図8、10)。マグロ以外の海の幸も一緒に、美味を堪能させていただいた。

なお、銀座も大阪も、いずれのお店もエレガンスな雰囲気、五感を十分に楽しむことができた。一貫しているのは、魚に対する感謝と愛情が基盤にあること。長年にわたる研究が先輩か



図9

ら後輩に受け継がれてきたことである。世界を見渡しても、このレベルを継続することは容易ではないと思われる。

今後の展開に期待

様々な国際的問題により、今後日本でマグロが食べられなくなる恐れがあるという。こんな時期に、近大マグロの研究や実践活動は非常に意義深い。

食や文化でも発展が期待される。21世紀の医学(糖質制限、健康食)では蛋白質摂取のため、魚や肉の生産が重要だ(表1)。マルチファクターで考えると、経済波及効果が2~4~8倍と増強していくように思われる(図11)。

実は、心療内科でも進化がある。以前は生物医学的(biomedical)モデルだった。

たんぱく質の多い食品	蛋白質の含有量 (/100g)	(g/100g、水分40%以上)
順位	種類	(g/100g)
1	しらす干し	40.5
2	いわし(丸干)	32.8
3	いくら	32.6
4	すじこ	30.5
5	牛肉(腱)	28.3
6	たらこ(焼)	28.3
7	あじ(焼)	27.5
8	はまぐり(佃煮)	27.0
9	あゆ(天然/焼)	26.6
10	ほんまぐろ	26.4
11	キャビア	26.2
12	まぐろ	26.0
13	かつお(春)	25.8
14	いわし(焼)	25.8
15	スモークサーモン	25.7
16	生ハム(熟成)	25.7

表1

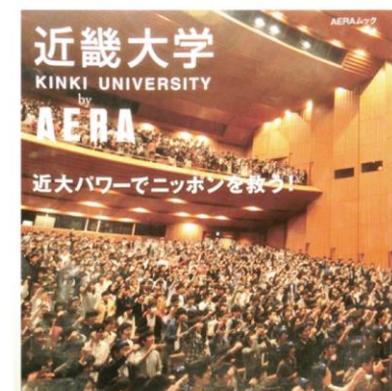


図11

今では、生物・心理・社会的医学(bio-psycho-social medical)モデルと、幅広く複眼で診る時代となった。これが全人的医療である。

近大マグロのさらなる展開に期待したい!

(板東浩、ばんどうひろし、医学博士、糖尿病専門医、ピアニスト)